

国語科学習指導案

広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成20年月〇月〇日
- 2 学 年 第3学年 〇組
- 3 単元・教材名 想ぞうを広げて
指導内容・・・書くこと エ (書こうとする事を中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと)

4 本単元で扱う言語活動 「絵を見て想像したことを基に物語を書くこと」

5 単元について

○ 本学級の児童は、毎日の日記を通して、経験したことを書く活動を継続して行っている。のびのびと自分の感じたことを書き、週末になると、何を題材に書くか楽しみにしている様子がうかがえる。週末の日記の中から、他の児童の題材の参考になる作品やその子が考えていることがよくわかる作品、その子らしい表現の仕方をしている作品など紹介するときには、今回は誰の作品を聞くことができるのか楽しみにしている様子が見受けられる。また、日記に書く教師からの一言を楽しみしている発言も聞くことができる。その反面、書きたいことが見つからない児童、どのように書けばいいのか書き方に悩んでいる児童もおり、書く前に下書きのメモを必要としている児童もいる。また、すすんで休憩時間に本を借りたりお話を楽しみにしていたりするなど、本を読むことが好きな児童が多い。週3回の朝読書の時間も静かに本を読み、物語の世界に浸っている様子がうかがえる。自分の好きな本を家から持ってきて友達に紹介する児童もいる。音読に関しては、すらすらと読める児童が多いが、中には漢字の習得が不十分ですらすらと読むことを苦手としている児童もいる。

○ 本単元では、絵を見てお話を書くことを通して、想像して文章を書くことの楽しさや互いの文章のよいところを見付け合う喜びを味わわせることをねらいとしている。

本教材の絵は、森の道に、男の子と女の子の二人、9ひきの動物やうろが顔のように見える木が描かれている。このことにより、二人が森を抜けて城に着くまでの間に何かあるだろうという想像をかきたてられ、場面設定を考えたり、登場人物の性格を考えたりしながら、自由にお話を広げることができる題材である。現実にはありえないことも思いのままに空想を広げられる魅力があるが、お話の内容を「二人の子どもが城へ着くまでのお話」「森の中の出来事」と枠組みを定めることにより、想像したことを脈絡なく散りばめるのではなく、一本の道筋に沿って物事を関連づけて文章を構成する力を付けることが期待できる。

○ 指導に当たっては、始めに絵に描かれているものについて自由に想像し、森や登場人物がどんな様子に見えるかなどを交流する。そして、絵から想像して自分だけのお話を書くことを伝え、書いてみたいという気持ちを喚起したい。主人公に名前をつけたり、お話の中に登場させたいものを自分なりに取捨選択してキャラクター設定をしたりして、自分のお話に愛着をもたせるようにする。また、各自の想像を交流する中で、お話の始めと終わりや話の条件(起承転結)などの枠組みを決め、文脈の通った文章になることを目指したい。次に、登場人物はどんな性格か、どんな出来事が起こりそうか、そのときどんな気持ちになるだろうかなどを具体的に想像し、「お話マップ」に書き込む。「お話マップ」に書かせることで自分の作ろうとするお話の流れを視覚的に確認できるようにし、実際に書き進める上でも参考にさせるようにする。お話の流れのイメージをもちにくい難しい児童には「ヒントカード」を示し、会話や気持ちなどを想像する手がかりにできるようにする。最後は、友達の作ったお話を読み合い、お話のつながりの面白さや工夫などについて感想を交流する時間を設定し、書き終えた満足感や成就感を味わわせ、次の作文への意欲につなげたい。

6 単元の目標

- 絵を見て想像した事柄を基にして、段落と段落との続き方に注意して自分のお話を書くことができる。

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ お話作りに興味を持ち、絵から想像したことを基にして書こうとしている。	○ 絵から想像した事柄を基にして、段落と段落との続き方に注意しながら文脈の通ったお話を書いている。	○ 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学習内容	評価の観点			評価規準・評価方法
			関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能	
一	1	絵から登場人物の性格、森の様子などを想像する。	○	○		● お話作りに必要な事柄を見付けている。 (ノート・ワークシート・発表・行動観察)
二	2	前時で考えたことを基に自分のお話のあらすじを決定し、「お話マップ」に書く。 (本時)		○		● 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように登場人物や出来事を構成して、お話の流れを考えている。 (「お話マップ」・発表)
	3	前時で考えた「お話マップ」を基に、段落と段落との意味のつながりを意識してお話を書く。		○	○	● 書こうとすることの中心を明確にし、文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使ってお話を書いている。 (ワークシート・発表・ヒントカード)
三	4	書き上がったお話を友達と交換して読み合い、つながりの工夫などについて意見を述べ合う。	○	○		● 友達の作品を読み、登場人物や出来事の構成の面白さや段落と段落とのつながりの工夫などを知ろうとしている。 (ノート・発表・行動観察)

9 本時の目標

- 段落の役割を理解して、自分の書こうとするお話の流れが明確になるように「お話マップ」を書くことができる。

10 本時の学習展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 絵からお話を想像する。</p>	<p>○ 絵から想像した事柄を掲示物で確認し、お話作りへの興味を喚起する。</p> <p>○ 友達と交流し、想像を楽しむ雰囲気を作る。</p>	
<p>どんなお話にするか考えよう。</p>		
<p>3 お話の流れを考える。</p> <p>○ 自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 犬は、二人にずっと道を案内してくれそう。こっちにおいて。 ・ きつねは、こっそりのぞいているから、いたずらすることにしよう。 ・ 熊は、起こされて「起こすなよ。うるさいな。」って言うよ。 ・ 道の奥が暗くなりそうだから、道に迷うことにしようかな。 ・ 助けてくれた動物には、バスケットの中のおやつをあげることにしよう。 	<p>○ 自分のお話の登場人物を意識するために、選択した登場人物の絵を、段落構成を意識した「お話マップ」に貼る。</p> <p>○ お話の流れを視覚的に捉えて構成できるようにするために、「お話マップ」に登場人物の性格や言いそうなこと、出来事、気持ちなどを書き込ませる。</p> <p>B お話の流れを意識することができるように、お城に着くまでに登場人物が主人公に対してどんなことを言ったりしたりするか考えるように助言する。</p> <p>C お話の流れを意識することができるように、お城に着くまでにどんな出来事が起こりそうか考えるよう助言する。</p>	<p>A お話の全体的なつながりを意識して、「お話マップ」に想像した登場人物の性格や言いそうなこと、出来事、気持ちなどを詳しく書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲良しの二人が森へピクニックに出かけます。→森の入り口でかえるが「森の向こうにきれいなお城があるよ」と教えてくれます。→途中で眠っていた熊に「うるさいな！」と言われてこわかったけど、犬に助けてもらいます。→無事にお城に着いて、犬と一緒にバスケットのおやつを食べます。 <p>B お話の流れを意識して、「お話マップ」に、想像した登場人物の性格や言いそうなこと、出来事、気持ちなどを書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人が森にピクニックに出かけます。→かえるが「どこに行くの？」と聞きます。→眠っている熊のそばを通るのはこわいです。→お城に着いておやつを食べて「おいしいね」と言います。
<p>4 あらすじを友達と交流する。</p>	<p>○ お話の流れを意識していることや、自分らしい想像を膨らませていることを取り上げて評価し、次時のお話作りへの意欲が高まるようにする。</p>	
<p>5 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 「お話マップ」を基に、お話を書くことを知らせる。</p>	